

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-114299
(P2001-114299A)

(43) 公開日 平成13年4月24日 (2001.4.24)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	7-7J-T* (参考)
B 6 5 D 30/20		B 6 5 D 30/20	A 3 E 0 6 4
77/30		77/30	C 3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全6頁)

(21) 出願番号 特願平11-292399

(22) 出願日 平成11年10月14日 (1999.10.14)

(71) 出願人 598081229

今野 誠

東京都練馬区旭町3丁目13番15号

(72) 発明者 今野 誠

東京都練馬区旭町3丁目13番15号

(74) 代理人 100066784

弁理士 中川 周吉 (外1名)

Fターム(参考) 3E064 AA13 AE03 BA26 BA35 HA06

HB03 HB05 HJ01 HK10

3E067 AA11 AB01 AB76 BA13A

BB14A BB15A EE02 EE12

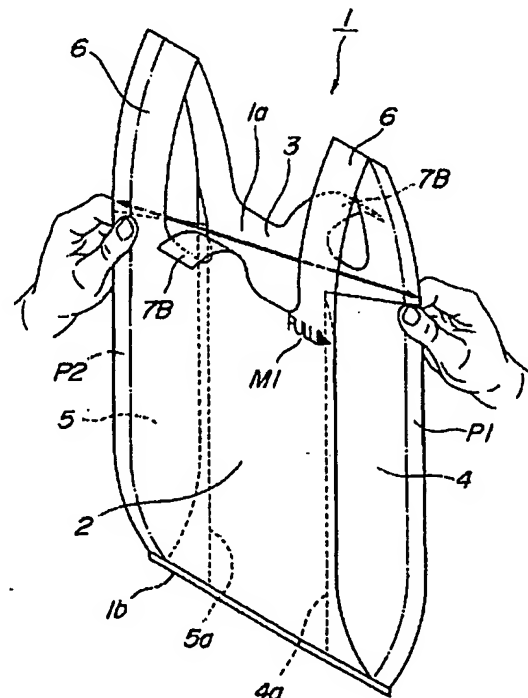
FA01 FC03

(54) 【発明の名称】 袋

(57) 【要約】

【課題】 本件発明の目的は、正面と裏面が密着しやすい合成樹脂製の袋であっても、簡単な操作で開口部を開くことが出来る構造の袋を提供することにある。

【解決手段】 正面(2)、裏面(3)、第1側面(4)、第2側面(5)を有し、上端が開口部(1a)となる袋(1)であって、第1側面(4)及び第2側面(5)を袋(1)内側に突出する断面V字型に形成して折り畳み部(4a)、(5a)を構成するとともに、正面(2)と裏面(3)とを左右方向にずらして重ねることによって、前記正面(2)の一方に第1側面(4)の一部を露出させ第1引出部(P1)を形成し、前記裏面(3)の一方には第2側面(5)の一部を露出させ第2引出部(P2)を形成し、これら第1引出部(P1)と第2引出部(P2)を前記開口部(1a)の対角線方向に引っ張ることにより前記開口部(1a)を開放可能としたことを特徴とする袋(1)として、上記課題を解決する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 正面、裏面、第1側面、第2側面を有し、上端が開口部となる袋であって、第1側面及び第2側面を袋内側に突出する断面V字型に形成して折り畳み部を構成するとともに、正面と裏面とを左右方向にずらして重ねることによって、前記正面の一方の側方に第1側面の一部を露出させ第1引出部を形成し、前記裏面の一方の側方には第2側面の一部を露出させ第2引出部を形成し、これら第1引出部と第2引出部を前記開口部の対角線方向に引っ張ることにより前記開口部を開口可能としたことを特徴とする袋。

【請求項2】 請求項1記載の袋であって、前記正面、前記裏面、前記第1側面、前記第2側面の少なくともいずれかにマーキングを施し、前記第1引出部と前記第2引出部を使用者が容易に認識できるようにしたことを特徴とする袋。

【請求項3】 請求項1記載の袋であって、一の該袋の上端をミシン目を介して他の該袋の下端に連結することで複数の前記袋を帯状に連続させ、さらにロール状に巻回したことを特徴とする袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本件発明は、塩化ビニル、薄いポリエチレンシート等の合成樹脂によって成形された、例えばコンビニエンスストアやスーパーマーケット等の店舗で使用される買物袋、または家庭で使用される袋であって、特に使用者が簡単な操作で容易に開口部を開かせることができる袋に関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、特願昭62-92836号公報に記載される、合成樹脂製の一般的な買物袋は、正面、裏面、並びに断面V字型に内側に折り込まれた左右側面から構成される。このような買物袋は、正面と裏面が密着した状態で製造・保管されるために、両者間は真空状態となり、または静電気の働きにより密着してしまうために、上端部の開口部を広げることが難しい場合があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このような正面と裏面が密着した袋の開閉作業は、一般に袋の表面を把持し難いために困難である場合が多い。セルフサービスが主流となっているスーパーマーケット等では、買物客自らが渡された買物袋を開かなければならず、特に高齢者にとっては大きな負担であり、解決が望まれる課題であった。

【0004】 また、当然に店員が買物袋へ物を入れる作業を行う場合も、袋の開口部を開く作業に時間がかかるとレジでの作業効率が悪化し、レジ前の混雑等を招くという課題もあった。

【0005】 一方、袋に関する従来例として、例えば実公昭57-42825号公報に記載されるものがある。かかる袋

は、やはり正面、裏面、並びにV字型に内側に折り込まれた左右側面から構成され、正面を裏面より小さくして左右側面の一部が正面の両側部に現れる構造が開示されるが、この露出部は一方の面にのみ現れるものであり、袋の開口を補助するという点では、これになんら寄与するものではない。

【0006】 そこで、本件発明の目的は、正面と裏面が密着しやすい合成樹脂製の袋であっても、簡単な操作で開口部を開くことが出来る構造の袋を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するための本発明の袋は、正面、裏面、第1側面、第2側面を有し、上端が開口部となる袋であって、第1側面及び第2側面を袋内側に突出する断面V字型に形成して折り畳み部を構成するとともに、正面と裏面とを左右方向にずらして重ねることによって、前記正面の側方に第1側面の一部を露出させ第1引出部を形成し、前記裏面の側方には第2側面の一部を露出させ第2引出部を形成し、これら第1引出部と第2引出部を前記開口部の対角線方向に引っ張ることにより前記開口部を開く構造とする。

【0008】 また、前記正面、前記裏面、前記第1側面、前記第2側面の少なくともいずれかにマーキングを施すことにより、前記第1引出部と前記第2引出部を使用者が容易に認識でき、より使用しやすい袋とすることができる。

【0009】 さらに、一の該袋の上端をミシン目を介して他の該袋の下端に連結して複数の前記袋を帯状に連続させ、さらにロール状に巻回したことにより、上記特徴を持った袋を連続供給することができ、また、単体の袋の切り出し作業と袋の開口部の開口作業を同時に行うことができる。

【0010】

【発明の実施の形態】 (第1実施形態) 以下、添付図面を参照して本件発明の第1実施形態を説明する。図1は本発明の第1実施形態にかかる袋の正面図、図2は同袋の図1のA-A線断面図、さらに図3は同袋の使用状態の説明図である。

【0011】 図1並びに図2に示すように、本実施形態の袋1は、塩化ビニル（炭酸カルシウム含有のものを含む）等の合成樹脂で一体に成形される買物袋であり、正面2、裏面3、第1側面4、第2側面5とから構成され、袋1の上端が開口部1aとなり、下端が熱溶着等により封止されて底部1bとなっている。なお、以下の実施形態では便宜的に第1側面を正面右側の側面、第2側面を正面左側の側面としたものであって、勿論、反対であっても良い。

【0012】 第1側面4、第2側面5はいずれも折畳線4a、5aにより袋1の内側に断面V字となるように折り畳まれている。正面2と裏面3は同一形状を有する

が、左右方向に位置をずらして対面させている。このため正面2の一の側方には折り畳まれた第1側面4の一部が幅L1で、裏面3の一の側方には同様に折り畳まれた第2側面5の一部が幅L2で帯状に現れることになり、それぞれ、この外側に現れた部分が第1引出部P1、第2引出部P2となる。なお、この幅L1、L2は特に限定はないが、使用者が指で把持する幅、例えば10mm前後が好適である。

【0013】また、本実施形態の袋1では、第1引出部P1、第2引出部P2を使用者がより認識し易いように、正面2及び裏面3上の所定の位置に、使用者が引っ張るべき部分を示すマーキングM1を印刷している。

【0014】袋1の上端の両側には正面2と裏面3との間で掛け渡される把手6、6が形成され、開いた場合にアーチ型の把手となる(図3参照)。また、袋1の上端の中央には袋を保持するための吊下片7が形成され、中央に形成されるミシン目7aを境界として上側の端部7Aと下側の基部7Bに分かれる。そして、端部7Aには孔7bが穿孔されており、多数の袋1を束ねた状態で、図1に破線で示されるフック8をこの孔7bに通すことによって袋1の束を所定位置に保持することができる構造となっている。

【0015】次に、本実施形態の袋1の使用方を説明する。まず、フック8に吊下げられた袋1を引っ張ることにより、吊下片7はミシン目7aから上下で切断され、フック8に端部7Aを残した状態で束から単一の袋1を取出すことができる。

【0016】そして、図3に示すように、使用者はマーキングM1の指示に従って第1引出部P1及び第2引出部P2を把持し、これを袋1の両側へ引っ張る。このとき、第1引出部P1は裏面3と共に引っ張られ、第2引出部P2は正面2とともに引っ張られるため、力がかかる方向は図示するように開口部1aの対角線方向と一致する。

【0017】この作業により第1側面4、第2側面5の折畳線4a、5aが引っ張られて、折り畳まれた第1側面4、第2側面5が展開するので、たとえ正面2と裏面3が静電気の影響により、または気密状態となっているため密着していても、簡単に開口部1aを開くことができる。

【0018】(第2実施形態)本発明の第2実施形態を図4を用いて説明する。同図は、第2実施形態にかかる袋の斜視図である。なお、同図は袋11の構造の説明を容易にするため、袋11の開口部11aが開いた状態で作図しているが、通常は第1側面14、第2側面15が折り畳まれ、正面22と裏面23とが密着した状態で保持されている。

【0019】第2実施形態にかかる袋11は、第1実施形態の袋1と同様、塩化ビニル製の買物袋であって、互いにずれた状態で対面する正面12、裏面13及び断面V字型

に折り畳まれた第1側面14、第2側面15から構成され、上端を開口部11aとし、下端を底部11bとしている。

【0020】本実施形態の袋11は、第1実施形態の袋1と異なりアーチ型の把手を有さず、正面12及び裏面13の上部に把手孔16を開口している。

【0021】また、本実施形態の袋11は、第1実施形態の袋1において正面12及び裏面13に印刷したマーキングM1の代りに、第1側面14及び第2側面15の上部に面状に着色したマーキングM2を施している。この第1側面14と第2側面15は内側に折り畳まれるものの、第1実施形態の袋1と同様に一部が正面12、裏面13の側方に現れるためにマーキングM2が表面に現れ、使用者に第1引出部P1、第2引出部P2を容易に認識させることができる。

【0022】この袋11は、使用者が第1引出部P1及び第2引出部P2を把持して両側に引っ張ることによって容易に開口部11aを開くことができる。かかる作用については第1実施形態と同様であるため、説明を省略する。

【0023】なお、マーキングについては、第1実施形態の袋1のM1、第2実施形態の袋11のM2を例に挙げて説明したが、例えば、正面の両側に引田部を指示するマーキングを施してもよい。すなわち、マーキングは使用者が引出部P1、P2を認識する助けとなるものであって、多種類の文字、色、記号を使うことで多様な形態が考えられる。

【0024】(第3実施形態)本発明の第3実施形態を図5及び図6を用いて説明する。図5は第3実施形態にかかる袋を連続させた帯体を巻回したロールの斜視図、図6は同袋の切り分け作業の説明図である。

【0025】図5に示すように、本実施形態の袋21は薄いポリエチレン製の水密袋であって、複数の袋21をミシン目26で区切って帯状に連続させたものである。そして、かかる帯状に連続した袋21を巻回してロールRとし、取扱いが容易な形態で保存している。

【0026】個々の袋21は、上記した第1及び第2実施形態と同様に、互いにずれた状態で対面する正面22、裏面23及び断面V字型に折り畳まれた第1側面24、第2側面25から構成され、上端を開口部21aとし、下端を底部21bとしている。そして、一の袋21Aの開口部21aはミシン目26を境目として、他の袋21Bの底部21bに連続している。

【0027】図6に、本実施形態の袋21の使用方を説明する。所定の方法によりロールRの回転を規制したうえで、引出した最先の袋21を引張り、ミシン目26に沿って一方の側から切り取るにより単一の袋21を切り出す。

【0028】このとき、使用者が第2引出部P2を把持し、ミシン目26を第2引出部P2側から第1引出部P1側へ切り取っていくことで、切断点Cが第1引出部P1

に至ると、引張り力は第2引出部P2と第1引出部P1との間に作用することとなり、第1実施形態の図3と同じ状態となる。従って、この状態では折り畳まれた第1側面24及び第2側面25が展開するために開口部21aが開き、開口部21が既に開いた状態で袋21を切り出すことができる。

【0029】すなわち、本実施形態によれば、袋の帯状連続体から単一の袋21を切り出す作業と、袋21の開口部21aの開口作業を同時に行うことができ、作業性に優れた袋とすることができる。また、特に、使用者はかかる一連の作業を片手で行うことができ、両手を使って開口部の開口作業を行う第1及び第2実施形態に比べて、さらに良好な作業性を備える袋となる。

【0030】なお、本実施形態の袋21は、帯状連続袋の最も基本的な形態を例示したが、これに加えて、第1及び第2実施形態で示したマーキングM1、M2を付すことも可能であり、また把手用の孔を形成することもできる。

【0031】また、第1乃至第3実施形態の袋1、11、21では、第1引出部が正面右側に、第2引出部P2が裏面右側に現れる例を示したが、当然、第1引出部P1が正面左側に、第2引出部P2が裏面左側に現れる構成としても良い。

【0032】さらに、第1乃至第3実施形態の袋1、11、21では、いずれもスーパーマーケットやコンビニエンスストア等で使用される買物袋を例示して説明したが、この他に、かかる構造を家庭で使用するゴミ袋や冷蔵庫で使用する食料保存袋等に応用できることは勿論である。

【0033】

【発明の効果】以上説明したように、本件発明の袋によれば、たとえ正面と裏面が密着して開口部を開き難い袋であっても、袋の正面並びに裏面の側方に現れる第1引出部並びに第2引出部を引っ張ることにより、簡単に開口部を開くことができる。このため、使用者、特に高齢者にとって作業負担の少ない袋を提供することができるとともに、買物袋とすれば店舗における作業効率を向上させることができる。

【0034】また、マーキングを付すことにより、使用者が把持すべき引出部を容易に認識することができ、取扱性を高めた袋を提供することが出来る。

【0035】さらに、複数の袋をミシン目を介して帯状に連続させ、これをローラ状に巻回した場合は、上記特徴を有する袋を連続して供給することができるとともに、単体の袋の切り出し作業と開口部の開口作業を同時に行うことができる。特に、ロールを固定すれば、片手で行う切り出し作業及び開口作業を行うことができ、取扱性に優れた袋とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態にかかる袋の正面図である。

【図2】同袋の図1におけるA-A線断面図である。

【図3】同袋の使用方法的説明図である。

【図4】本発明の第2実施形態にかかる袋の斜視図である。

【図5】本発明の第3実施形態にかかる袋をローラ状に巻回した状態の斜視図である。

【図6】同袋の使用状態の説明図である。

【符号の説明】

P1、P2 …引出部

M1、M2 …マーキング

C …切断点

1、11、21 …袋

1a、11a、21a …開口部

1b、11b、21b …底部

2、12、22 …正面

3、13、23 …裏面

4、14、24 …第1側面

5、15、25 …第2側面

4a、5a …折畳線

6 …把手

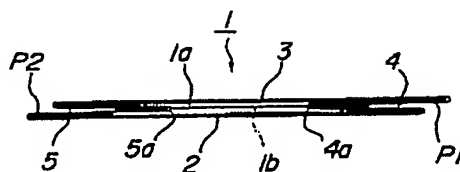
7 …吊下片

8 …フック

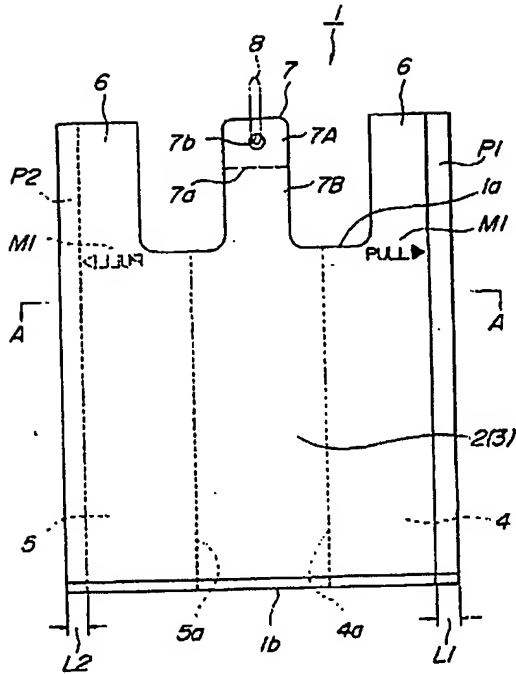
16 …把手孔

26 …ミシン目

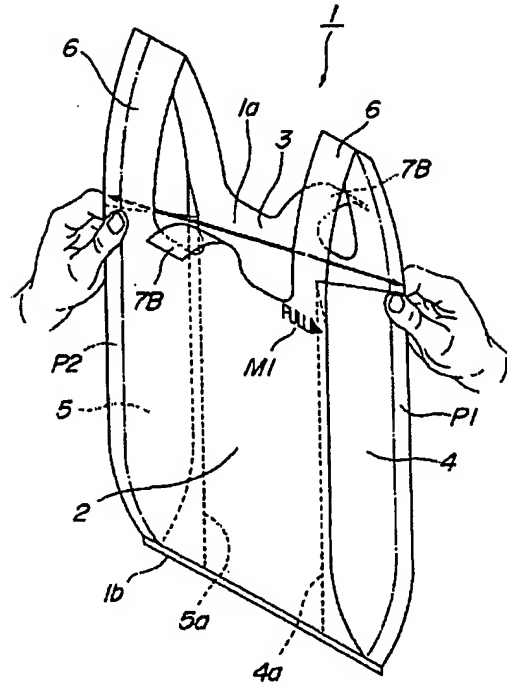
【図2】



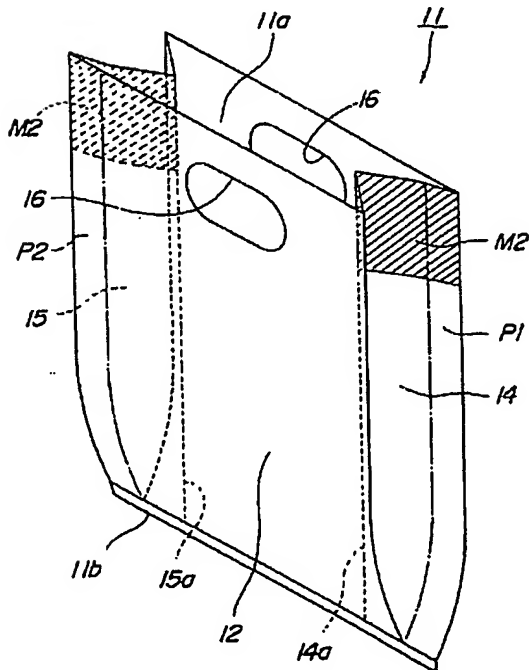
【図1】



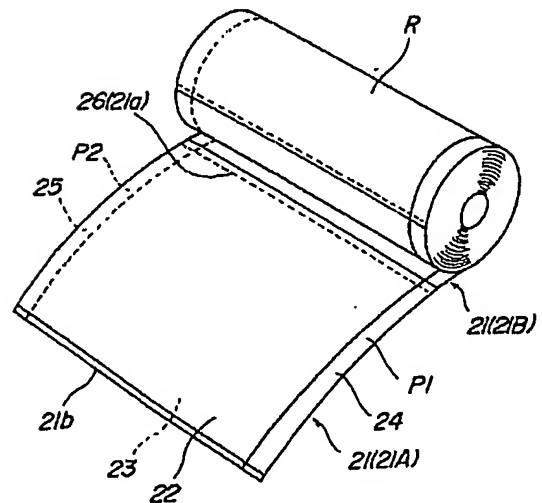
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

